

(仮称) 深谷通信所跡地公園整備事業、同墓園整備事業

環境情報提供書 (原文電子データ化)

【1 件目】(公園、墓園)

- 1、私達が活動している“わきみずの森”の緑と水は、住民に憩いの場を提供するとともに、豊かな水生小動物や昆虫を育てており、子ども達に自然と触れ合う場と提供しています。ここの湧き水は深谷通信所跡地に広い流域を持ち、地下水が供給されていますが、水量は少なく、数年に 1 度涸れる状況にあります。敷地内に整備が計画されている「雨水流失抑制施設」に貯水した水を乾季に“わきみずの森”に供給する仕組みにしていいただければと考えます。洪水防止と湧き水の増加を兼ねる施設の設計をお願いします。
 - 2、通信所跡地にできる遊歩道と私達の緑と湧き水のせせらぎの“わきみずの森”の遊歩道が繋がれば、より魅力的なオアシス的な役割を果たせると考えます。この森は平成 28 年のヨコハマ市民まち普請事業で公共性が認められ、整備されたもので、会員が通年週 1 回の維持活動をしています。
 - 3、この“わきみずの森”には、水生小動物としてはオタマジャクシ、サワガニ、ヤゴ、カワニナ、アメンボ、ユスリカなどが、昆虫としてはカブトムシ、バッタ、カミキリムシ、トンボ、チョウなどが、鳥類としてはウグイス、キジ、カラス、シジュウカラ、スズメなどが、またカエル、ヘビ、トカゲ、リスなどが多数生息しています。現在、保健衛生局の職員の方々により詳しい調査がなされており、結果が楽しみです。
- ☆私達の“わきみずの森”の所在地は墓苑から約 100m 程離れた森の中にあります。泉区和泉町 1 8 3 0 ～ 1 8 7 0 番地

【2 件目】(公園)

「2.2.9 文化財等の状況」につきまして

1) 指定・登録文化財

文化財として指定・登録されてはおりませんが、事業計画区域内の数ヶ所にコンクリート製の地下壕が見受けられます。この地下壕は旧「東京海軍通信隊戸塚分遣隊」の耐弾式地下送信所の送信機室及び発電機室であると思われます。

昭和 16 年 8 月に「昭和十六年度軍備補充計画」の発動を受けて海軍は「昭和十六年に於ける海軍戦時計画」を策定し、無線通信の強化として東京通信隊を作戰通信中枢とし、本土内の各鎮守府の外、ほぼ西太平洋の全海域を範囲とすることを規定しました。当時、東京通信隊は海軍省内に本隊を置き、送信を船橋分遣隊、受信を蟹ヶ谷分遣隊を配置していたのですが、送信力の強化として戸塚分遣隊を新たに設置することにしたのです。

また、昭和 16 年 8 月に、「総合艦隊基本通信計画」（事務局注：総は耳偏の旧字体、以下同じ。）で東京通信隊は総合艦隊の指揮下に加えられました。

さらに、「昭和十八年海軍通信規程」では中枢通信隊として東京通信隊の強化が求められ、昭和 19 年 12 月には通信隊を航空作戦中枢として通信能力の強化及び艦隊の通信隊利用、通信隊の積極的協力を強化するという根本方針が樹立されました。

そして、昭和 20 年 4 月には、海軍総隊司令部が日吉に設置され、その作戦通信計画には、「戸塚分遣隊の送信機管制の為無線装備三基を装備すること」と記され、日吉の大地地下壕に設置された海軍総隊司令部の通信業務についても東京通信隊が行い、送信業務は戸塚分遣隊が日吉と直接行うことが計画されました。

昭和 16 年に新たに設置されることになった戸塚分遣隊は、昭和 16 年に当時戸塚区深谷町及び中田町にまたがる直径 1,000m の円形の用地 773,747 m² の買収を開始し、整地、施設の建設を進め、昭和 19 年 3 月 15 日に開隊されましたが、物資の不足等から通信所は、防弾式鉄筋コンクリート二階建の計画が、第一通信所は一階建、第二、第三通信所は木造一階建に変更されていました。

しかし、敵の空襲を回避する必要から耐弾式地下送信所が計画され、送信機室と発電機室を一对とし、敷地内の数ヶ所に分散隠蔽、各独立送信所として設置されました。

敷地内の何処に設置されたのか現在のところ確認することはできませんが、中央のフェンス内やかまくらみちの東側等に数基の一部露出したコンクリート製の地下壕らしきものが見受けられます。これらは戸塚分遣隊が設置した耐弾式地下送信所の送信機室と発電機室と思われます。

これらの施設は東京海軍通信隊戸塚分遣隊が世界を相手に戦った太平洋戦争の送信後有無を行っていたという重要な戦争遺跡であり、他には見られない貴重な歴史的遺産であると判断され、大切に保存し、後世に伝えていく必要があるものと思われます。

敷地内にはこの耐弾式地下送信所のほかにも、戸塚分遣隊が設置した未確認の施設が存在する可能性があります。早急に事業計画区域内の実態を把握し、文化財として詳細な発掘調査を行った上、保存していただけますよう強く要請いたします。

（提出資料）『郷土いずみ』第 22 号（泉区歴史の会 平成 28 年 5 月 29 日）P36～42

『郷土いずみ』第 26 号（泉区歴史の会 令和 2 年 5 月 27 日）P1～3

2) 周知の埋蔵文化財包蔵地

最近の発掘調査により、新たな遺跡として遺構、遺物等が発掘されています。

（1） 泉区 101（上飯田町 1121 付近）

○上飯田天神山古墳（上飯田町 1072 外）

平成 20 年 4 月 16 日～5 月 23 日の発掘調査により、古墳時代の円墳、土師器杯及び中世のカワラケ、天目茶碗、金箔残存の石製硯、常滑壺臓骨器、五輪塔（地輪）等が発掘されています。

（参考資料）『神奈川県横浜市泉区 上飯田天神山古墳』（株式会社 盤古堂 平成

20 年 6 月 30 日)

(2) 泉区 114 (上飯田町 1399 付近)〔下飯田町 1399 付近と思われます〕

① 下飯田林遺跡第 2 地点 (地区西) (下飯田町 1549 外)

平成 28 年 1 月 4 日～3 月 25 日の発掘調査により、中世から近世にかけての溝状遺構等が発掘されています。

(参考資料)「横浜市 下飯田林遺跡第 2 地点」(『第 40 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』神奈川県考古学会 平成 28 年 11 月 13 日)(正式報告書未刊)

② 下飯田林遺跡第 2 地点 (地区南) (下飯田町 859 外)

平成 28 年 1 月 9 日～3 月 25 日の発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代前期初頭の竪穴住居址、土器等が発掘されています。

(参考資料)「横浜市 下飯田林遺跡第 2 地点」(『第 40 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』神奈川県考古学会 平成 28 年 11 月 13 日)(正式報告書未刊)

③ 下飯田林遺跡第 3 地点 (下飯田町 1547 外)

平成 28 年 8 月 23 日～10 月 20 日の発掘調査により、中世の土坑墓、常滑産大甕(甕棺墓)、埋葬人骨、五輪塔、宝篋印塔の部材、板碑等が多数発掘されています。

(参考資料)「横浜市 下飯田林遺跡第 3 地点・中ノ宮北遺跡第 2 地点」(『第 41 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』神奈川県考古学会 平成 29 年 10 月 22 日)(正式報告書未刊)

(3) 泉区 116 (和泉町 3274 付近)

○中ノ宮北遺跡第 2 地点 (和泉町 3239 外)

平成 29 年 1 月 10 日～4 月 5 日の発掘調査により、中世の道路状遺構である「波板状凹凸痕」等が発掘されています。

(参考資料)「横浜市 下飯田林遺跡第 3 地点・中ノ宮北遺跡第 2 地点」(『第 41 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』神奈川県考古学会 平成 29 年 10 月 22 日)(正式報告書未刊)

(4) 泉区 125 (和泉町 3026-1 付近)

○泉中央公園遺跡 (和泉中央南 4-22)

平成 29 年 2 月 16 日～3 月 1 日の発掘調査により、中世の土塁及び空堀が発掘されています。

(参考資料)『泉中央公園遺跡発掘調査報告書』(泉土木事務所・横浜市ふるさと歴史文化財団 埋蔵文化財センター 平成 29 年 6 月 30 日)

3) その他

事業計画区域を南北に縦断する県道 402 号(阿久和鎌倉)は、「かまくらみち」の愛

称が付けられています。

この「(愛称) かまくらみち」は、瀬谷区阿久和町から戸塚区原宿町までですが、事業計画区域を横断し、戸塚区汲沢入口交差点で分れ、東海島の浅間神社参道付近へ至る道は、『横浜の古道』(横浜市教育委員会文化財課 昭和 62 年 3 月 31 日(平成 8 年 3 月 31 日増補改訂))には取り上げられておりませんが、次のことから古道であると判断されます。

- ① 瀬谷区阿久和坂上交差点から戸塚区汲沢入口交差点までの間に石造の 6 基の道標が現存しています。
- ② 『新編相模国風土記稿』鎌倉郡の「正保改定図」(正保年間 1644~8)には、瀬谷村から宮沢村を通り、阿久和村・和泉村・中田村・深谷村・汲沢村の境を経て東海道を横断し、小雀村までの道筋が描かれ、「原宿一里ヨリ武蔵界まで二里廿四丁十間」との添え書きがあります。その後の「元禄改定図」(元禄年間 1688~1705)、「今考定図」(天保 12 年 1841)にも同様に描かれています。
- ③ 『皇国地誌』の各村誌には、「藤沢往還」、「藤沢往来」、「八王子往還」、「八王子往来」等として記載されています。
- ④ 現在、この道筋は宅地開発等により一部不明となった個所もありますが、明治 15 年の大一軍管地方二万分一迅速測図(フランス式彩色地図)には明確に描かれており、東海道の先は玉縄城や山之内から鎌倉へ達していたようです。

以上のことから、この道は小田原北条氏の時代には玉縄城から八王子、川越方面への道として使用され、それ以前にも鎌倉道として利用されていたように思われます。

(提出資料)『郷土いずみ』第 25 号(泉区歴史の会 令和元年 5 月 24 日) P58~59、P77~79

以上